

オレ・オラ スタジアム



2019年新年号

発行:FC ムサシ
http://ole-musashi.com/
パス: musashi634

新たな1年のスタート

明けましておめでとうございます。

皆さんも新年の目標を立て、新たな一年を気持ちよくスタートしたでしょうか。

昨年は2月からカンボジアで過ごしたので1年にお正月を4回も体験しました。1月1日のインターナショナルニューイヤー、2月の中華正月(旧正月)、4月にはクメール正月、6月頃は一部の人となりますがイスラム教の正月(毎年時期がずれるようです)。文化が違うとお正月の過ごし方、お祝いの仕方も違いますが、日本人としては大晦日で一年を振り返り、リセットして新年を迎える日本のお正月が一番しっくりくる気がします。

スポーツの世界では成長していくためにエクササイズ(活動)、レスト(休息、リフレッシュ)、ニュートリション(栄養)のバランスが大切と言われています。スポーツだけではなく、勉強も同じです。大きく成長するために、1年間この3つのバランスを保つよう意識してみてください。

今年も子供たちがパワーアップできるよう、ムサシのスタッフも1年間サポートしていきたいと思えます。来年のお正月に成長を実感できた1年となるよう願っています。

1日1日を大切に

今年も共に成長していきましょう。

スーパーバイザー 水島武蔵



カンボジアU-19代表兼アカデミー監督として海外で頑張っているムサシコーチの記事がJFAの会報誌(JFA TECHNICAL NEWS)に掲載されました。オレオラ裏面もご覧ください！

明けましておめでとうございます



今年度のテーマ『自主性 自分⇨自分達へ!』

体操をやってくれる子、次集まる場所をみんなに声を掛けてくれる子、キーパーの順番決めを仕切ってくれる子、「試合やるよー」というコーチの声でピスをコーチのところまで持ってきてくれる子、分からない子に教えてあげる子、作戦会議で自分の意見を言う子、マーカーやコーンを片付けてくれる子、指導後の片付けを手伝ってくれる子。子どもは本来自主性を強く持っていることを改めて感じさせてくれました。また、サッカーの中で自主性を伸ばすのはコーチの関わり方次第であると痛感させられました。以下は、コーチ達が子どもの自主性を引き出す為に気を付けていることです。

- 分からないことやできないことを全てフォロー(答えをだしてあげる)はしないこと
- 意見や考えを否定しないこと
- 子ども達同士で教え合える雰囲気や隙をつくってあげる
- 最低限の指示をし、子どもにはあえて先回りして教えすぎないこと
- 考える余地を与え、まずは子供自身にやらせてみる
- 子どもが出来ることは必ず子どもにやらせていく

INDEPENDENCE of MIND

ライバルは自分! ~タイムトライアル~

今年度も秋にタイムトライアルを実施しました。測定結果用紙はお手元に届いたでしょうか。去年の自分と比べて、思うように結果は伸びていたかな?

ムサシでは秋にジグザグ走、ジグザグドリブル、リフティングを年齢に合わせて計測しています。毎年同じ条件で計測していますので、一年を通して自分で練習もできるはず。目標を持って練習に取り組むきっかけにしてほしいと思います。是非ご家族の方もお子様の練習を見てタイム計測・カウントをしてあげてください。タイム計測は勉強などにも効果があると言われてます。ゲーム感覚で前回タイムをクリアすることでやる気が出るとか。あくまでも目標は無理なく、楽しく続けられるものを。タイムを計り集中することで効率、効果も上がるそうです。サッカー以外でも、ぜひ試してみてください!



コーチより

コーチが見たみんなの成長

主体性が子供たちの中で育ってきたとコーチ達のはっきりと感じたのが、夏の菅平サッカーキャンプでした。

1,2年生の優勝チームのメンバーのほとんどがキャンプの目標は「みんなで優勝すること」。自分の考えを持つようになり、それを共有し最終的には「みんなで」決めていく、1,2年生でも十分出来ることを感じさせてくれました。

5,6年生のメンバーはあえて普段の練習会場が違う子をチームにし、同じ会場の仲間がいない中だったのですが、自然と自己紹介が始まり名前を覚え、楽しい雰囲気自分達で積極的に創り続けた3日間。コミュニケーションが密に取れているのもあり、いつも一緒に練習しているのではないかと疑うほどの高いレベルのプレーの連続でした。お別れの時には自然とハイタッチや「また会おうね!」。限られた時間を自分達から楽しむ姿は、本当に素晴らしかったです。

サッカーは、認知(見ること)・判断(決めること)・実行(行うこと)の繰り返しと言われてます。ではどうでしょう、これはサッカーやスポーツに限ったことなのでしょうか。普段から自ら選択して決めることをあまりしていない子どもは、サッカーではどうなると思いますか? 決めることに対して大人が介入し続けてしまっている子どもは、サッカーではどうなると思いますか? 失敗を先回りして教えてくれる大人がいつも近くにいる子どもは、サッカーではどうなると思いますか? 我々大人が変わることで、子どもの可能性はどこまでも伸びるということを確認させてくれた一年でした。

Musashi's Event

すっかり定着したムサシのハロウィンサッカー。ハロウィンメニューの練習終了後は、「トリック オア トリート」仮装での記念撮影。サッカーにもみんなの好きな行事を取り入れて楽しく♪これからもいろいろなイベントを考えていきます!



Halloween Soccer

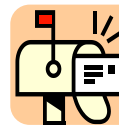


Niko-Niko Camp



秋はにこにこキャンプ!今年も3日程に分かれて実施し、たくさんのけりともが参加してくれました。

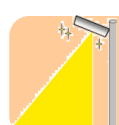
親の付き添いなし、他会場の仲間との1日。みんな一緒に外で食べるお弁当。いつもとは違う環境で、サッカーはもちろん虫取りや草ずもう、ボール(靴や帽子も!)飛ばし、リレーなど、自然の中で元気いっぱい過ごしてきました。参加されたお子様の成長を感じていただけただけではないでしょうか。



今年から年賀状をオレオラの紙面でのあいさつに替えさせていただきます。お引っ越しなどで住所が変わりましたら事務局までお知らせください。



忘れ物が増えていきます。持ち物には、必ず名前を書き、忘れ物のないように注意しよう!



練習後は寄り道せずにお友達とまっすぐ家に帰りましょう。自転車で来ている子は、ライトを必ず点けようね。



3月に卒業セレモニーを行います。6年生のみんな!!最後まで休まずがんばろう!



インフルエンザなどで学級閉鎖になった際は、サッカー参加可否のご連絡をお願いします。また、練習の有無などについて事務局までお問い合わせください。



3月は、年会費の引き落とし付きです。3月28日に4月分の月会費と一緒に引き落としになりますのでご注意ください。

サッカーフェスタについて
毎年どろきアリーナを会場としてサッカーフェスタを行ってききましたが、今年は会場を借りることができず開催を見送ることとなりました。家族でサッカーを楽しむ機会としてムサシとしても大切にしているイベントであり、また、楽しみにしてくださっているご家族もいらっしゃる中、とても残念なのですがご理解いただきますようお願いいたします。

海外で活躍する 指導者 60

「海外で活躍する指導者」、
60回目はカンボジアで活躍する
水島武蔵氏からの報告です。

カンボジアナショナルフットボールアカデミーと HUN SEN CUP

カンボジアのFIFAランキングは170位(2018年10月25日時点)。日本と100位以上の差がありますが、今年8月に行われたカンボジアリーグ優勝チームと日本フットボールリーグ(JFL)選抜との対戦では2-2の引き分けという結果を残しています。

カンボジアは、2023年の東南アジア競技大会(SEA GAMES)のホスト国に決まっており、大会に向けてスポーツの強化を行っています。そのSEA GAMESを目標に、5年前に設立されたのがカンボジアナショナルフットボールアカデミーです。アカデミーには設立時から、日本サッカー協会(JFA)より派遣された指導者が複数人関わっており、私はベガルタ仙台の吉岐友輔氏、井上和徳氏の後を継いで、今年2月にU-18ナショナルフットボールアカデミーおよびU-19代表の監督に就任しました。

アカデミーの施設は、プノンペン市内から約40kmのところにあります。天然芝グラウンド3面、ナイター付き人工芝グラウンド1面、宿舍、食堂、ミーティングルームが完備されており、サッカーに集中できる環境が整っています。アカデミーにはU-16とU-18のカテゴリーに各25名の選手が所属し、カテゴリーごとに6名のスタッフがいます。午前は地元の学校に通い、午後4時からトレーニング。週に2回は朝5時半から朝練というのが設立当初からの選手のスケジュールです。また、週に数回、夜に英語のレッスンがあります。カンボジアサッカー連盟のサオソカ会長は教育の重要性を唱えており、勉強とサッカーの両立がアカデミーでも求められています。

選手たちは、これまでの4年間でしっかりとした基礎を身に付けていますが、小柄なこともあり(日本の同カテゴリーの選手と比べて体重は3~4kg少ない)、フィジカルコンタクトが苦手で、現代サッカーに求められるインテンシティーに欠けている状況です。就任して最初の3カ月は、実戦的なスキルと判断にフォーカスすることとチームとしてコレクティブになることを進めてきました。

ナショナルフットボールアカデミーとして参加したHUN SEN CUP(日本の天皇杯のような国内大会)では、試合を積み重ねる中でチームとしてコレクティブになることが浸透して優勝。決勝では初の逆転勝利も経験しました。選手のメンタリティーが安定し、ゲームをコントロールする重要性を感じられる大会となりました。

AFF U-19選手権

7月1日~14日、東南アジアの11カ国が参加し、AFF U-19選手権が行われました。この大会には国内のクラブから選手を招集し、アカデミーの選手との混成チームで臨みました。クラブの選手たちにチャンスを与え、代表への関心や代表になることへの誇りを感じてもらい、新たなタレントを発掘するとともに、各年代の選手層に厚みを持たせていければと考えています。

予選グループでは、今大会優勝のマレーシア、準優勝のミャンマーにこそ敗れましたが、東ティモール、ブルネイに勝利し、2勝2敗。勝点1差でグループ3位となり、初の決勝トーナメント進出はなりませんでしたが、攻守にわたりコレクティブに戦うことができ、手応えを感じまし



カンボジアナショナルフットボールアカデミーの指導者たち



アカデミーの選手に指導を行う水島氏(中央)



スタッフと記念撮影(左から2人目が水島氏)

た。一方、マレーシア戦では現代サッカーの基本であるフィジカルコンタクトやインテンシティーの差を痛感させられました。国内ではこうしたハイレベルのゲームを体験する機会が残念ながらありません。日本が高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグに加え、海外遠征を増やして経験を積むことでレベルアップしてきたように、海外の強豪チームと戦う機会を増やしていく必要があります。

そうした中、10月上旬に日本遠征を行う機会がありました。日本で行われた「JENESYS2018 日メコンU-17サッカー交流大会」に招待されたのです。福島県の復興のシンボルとして再始動したJヴィレッジのすばらしい施設環境の中で、日本、ベトナム、ミャンマー、ラオスのU-17代表との国際試合を経験できました。特に日本戦は、相手のパスのクオリティーやゲームの組み立て方など貴重な体験となりました。

今年、カンボジア代表監督に本田圭佑氏が就任し、国内外からの注目度もアップしています。本田氏のポジティブな「NEVER GIVE UP」の精神が、カンボジアのサッカースタイルやメンタリティーに変化を起こすことを期待しています。先日そのカンボジア代表に、我がアカデミー所属のChanthea選手が招集されました。この選手はまだ16歳でいまだ小柄ながら、独特のリズムから生まれるドリブルに大いに期待しています。同時に、この大抜てきはアカデミーの他の選手たちにとって大きな刺激になっています。

カンボジアサッカーの今後に向けて

35年ほど前にブラジルから一時帰国した際、高校サッカー部の先生に「ブラジルのようなレベルに到達するにはどうしたらいいか」と問い掛けられたことを思い出しました。現在のカンボジアのサッカー事情は、まさにその当時の日本の状況です。

カンボジアがサッカーのレベルを上げ、アジアのトップに仲間入りするためには、日本が行ってきたシステムが参考になると思います。グラスルーツとして子どもたちにフットボールの魅力を伝える活動(草の根の普及活動)、各年代の選手たちのレベルアップ、コーチングスタッフおよび運営スタッフの育成など、経済面と計画性が必要ですが、それを行い、メディア、サポーター共に成熟したときに、カンボジアにサッカー文化が定着することでしょう。

今年9月、アカデミーは初めての卒業生を送り出しました。卒業生たちはクラブへの所属が決まり、プロとして歩み始めます。「仲間と一緒に過ごし、目標に向かって戦ったアカデミーでの5年間は何にも代えがたい時間でした。仲間と支えてくれた方々に感謝します」と卒業の言葉を残して巣立っていきました。この卒業生が選手としてだけでなく、いずれはカンボジアサッカーを支える存在になっていくことでしょう。私も引き続きスタッフと協力し、未来のカンボジアにサッカーのバトンをつないでいきたいと思っています。

プロフィール

水島 武蔵 (みずしま むさし)

1964年9月10日生まれ / 東京都出身

ブラジルのサンパウロFCでU-12年代からプレーし、1985年にはトップチームに所属。その後、ブラジル国内のECサンペント、ポルトゲザで活躍し、帰国後は日立製作所(現柏レイソル)、横浜フリューゲルスでプレーした。指導者としては、FCMサン横浜U-8~12監督やコーチを務めたほか、横浜FCユース監督、ブラジル・サンパウロ州1部リーグのITUANO FCヘッドコーチ、藤枝MYFC監督、日本経済大学(福岡)サッカー部監督なども歴任した。2018年2月からカンボジアナショナルフットボールアカデミーおよびU-19カンボジア代表の監督に就任し、現在に至る。1993年にブラジルテクニカルライセンス、2006年にJFA公認S級コーチライセンスを取得。

派遣国・地域の紹介

カンボジア王国



(出典: 外務省ホームページ)

東南アジアに位置し、タイ、ラオス、ベトナムと隣接。首都はプノンペン。面積は18.1万km²(日本の約2分の1弱)で、人口は1,610万人(2017年IMF推定値)。人口の90%がカンボジア人(クメール人)とされている。公用語はカンボジア語で、宗教は仏教(一部少数民族はイスラム教)(以上、外務省ホームページを参考)。FIFAランキング: 170位(2018年10月25日発表時点)